令和５年１０月２２日（日）
主催：豊田市文化財課　協力：株式会社フジケン、株式会社イビソク

# 挙母城（桜城）跡発掘調査現地説明会

## 調査の目的

今回の挙母城（桜城）跡の調査は、マンション建設に伴うものです。事前に範囲確認調査を実施したところ、桜城二の丸の堀と想定される遺構が確認されたため、発掘調査によって遺構などの記録保存を行っています。

また、平成 18 年～19 年にかけ、調査区から北へ約 100mの位置にある豊田信用金庫本店の工事に伴い、1・２次発掘調査を行いました。より詳細な桜城の姿を検討するために、今回の調査結果と合わせて活用していきます。

## 挙母城（桜城）跡とは？

挙母城（桜城）跡は、慶長 14 年（1609）三宅氏、天和 3 年（1683）本多氏、そして宝暦 6 年（1756）の挙母藩内藤家と、３回にわたり築城されたことが記録に残されています。

３度目となる築城は、初代藩主内藤政苗（まさみつ）により開始されます。しかし、矢作川に近く、洪水被害を受け、２代藩主学文（さとふみ）が築城を中止し、現豊田市美術館の敷地である挙母城（七州城（しちしゅう））跡へと移転しました。そのため、内藤家の桜城は現存する二の丸平櫓台をはじめ、二の丸部分のみ築城され、それ以外は未完成と考えられています。

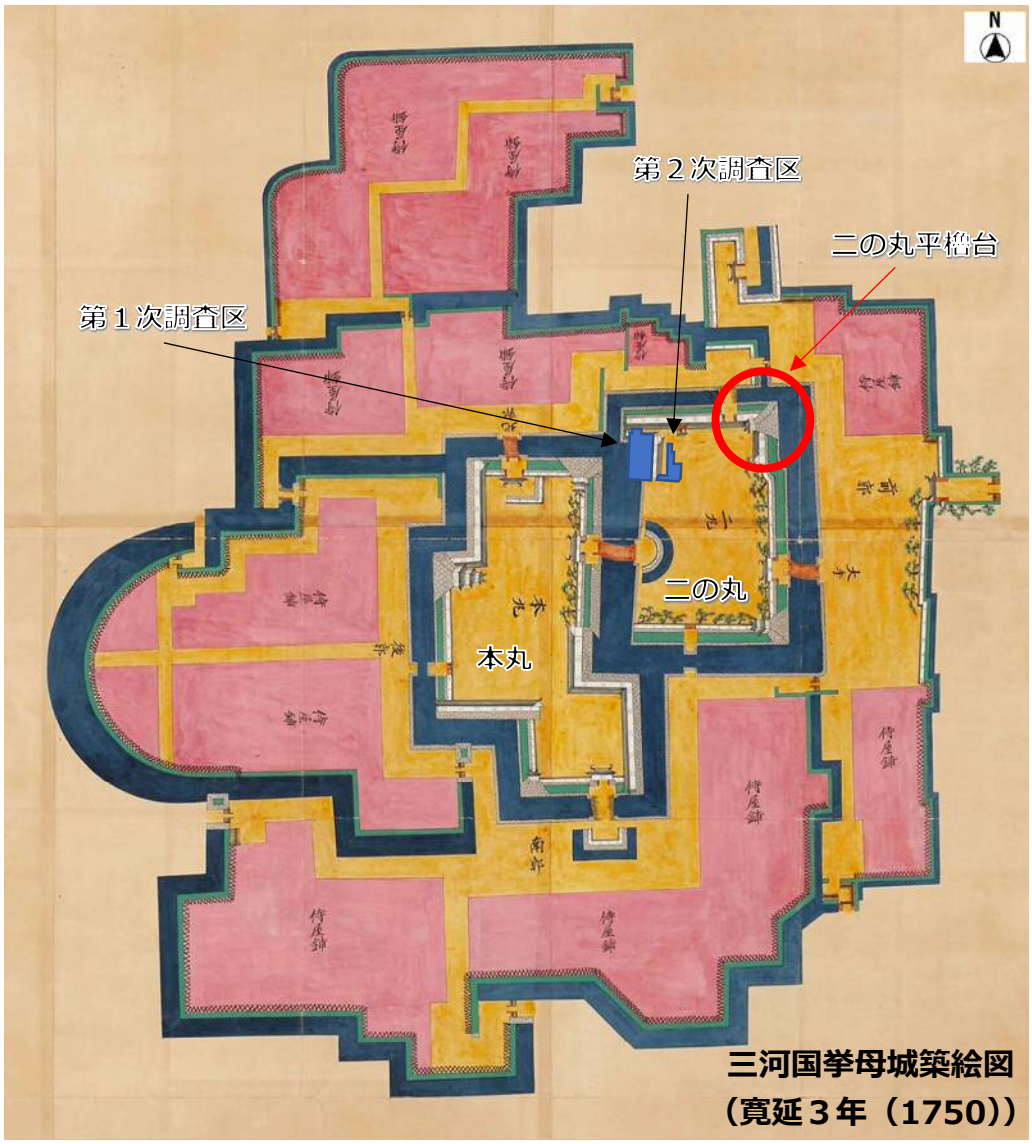
桜城二の丸平櫓台（市指定文化財）

## ～調査の見どころ～

⇦石垣は、地面を掘って石材を置き、石が動かないよう前に木杭と竹、こぶし大の石で固定されています。さらに木杭等を覆うように土を土手状に盛ることでより強く石垣を固定していたことが分かりました。

⇦桜城の石垣は水が湧き出す不安定な立地に建てられています。そのため、石垣の下に「胴木（どうぎ）」と呼ばれる木材を並べ、地盤沈下の影響を石垣全体で受け止める工夫がされています。

今回の調査では、「曲輪（くるわ）」と想定される平場が確認され、石垣の向きから、これまで未完成とされていた、「本丸」の一部ではないかと想定されます。今後、出土遺物や絵図を参考に検討を進めます。さらなる調査の進捗にご期待ください！！




三河国挙母城築絵図
（寛延３年（1750））

調査区
（黒線：石垣位置）

調査区位置図